

# 不正リスク検知PDCAサイクル化

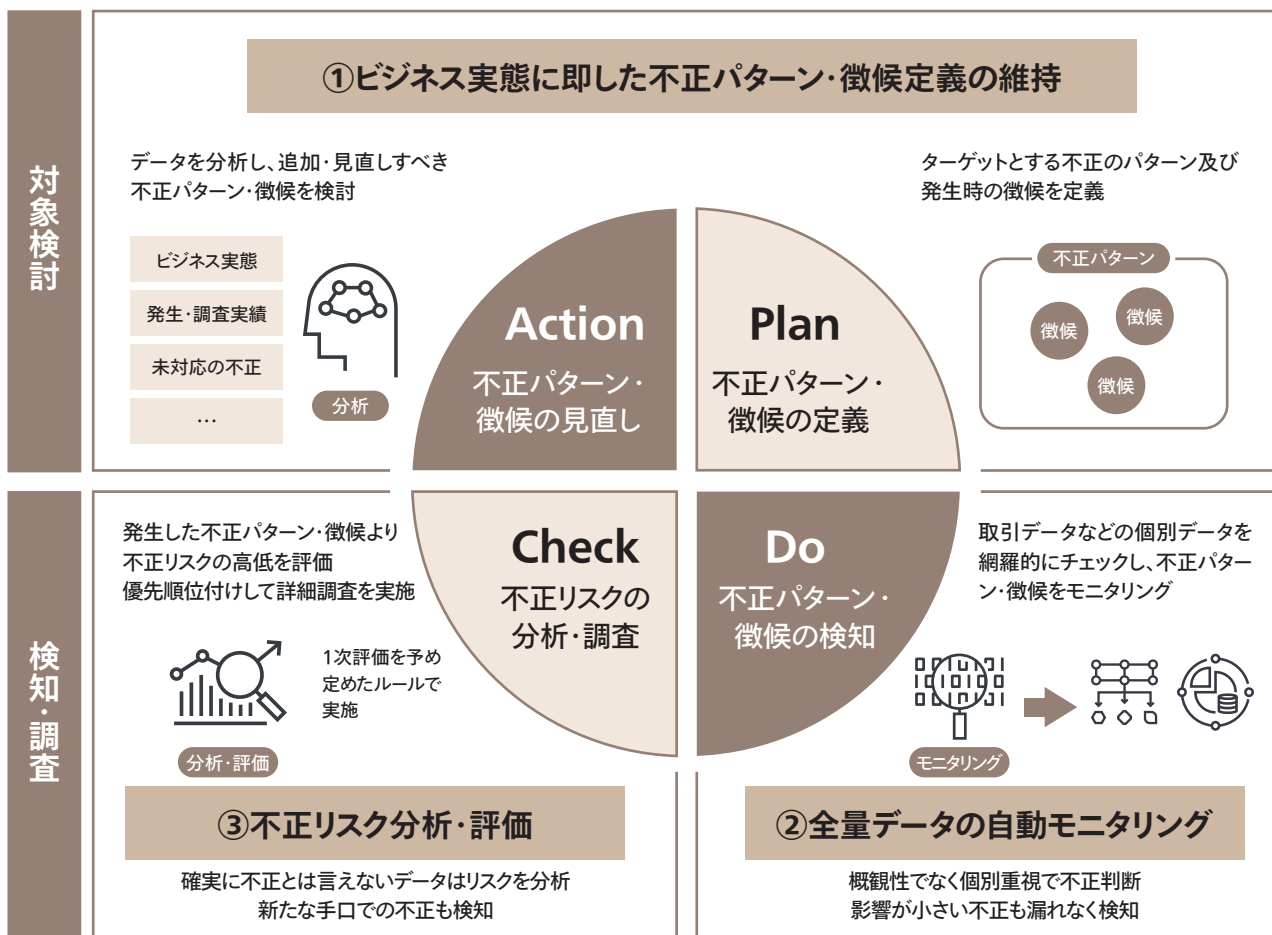
ビジネス実態の変遷に対応できる不正リスク管理体制の構築

近年、不正対策の必要性が高まる一方で、M&Aやグローバル化推進の影響で、組織構造が複雑化し、対応が難しくなっていることも事実です。アビームコンサルティングでは、データを活用した独自の課題解決のアプローチにより、不正リスクを可視化し、不正に強いガバナンスの実現を支援します。

当サービスでは、不正が発生する際にデータに現れる徴候を個別重視でモニタリングし、不正リスクの発生を検知する仕組みの構築、及びビジネスの実態に合わせて、継続的に適正化できる管理体制の構築を行います。

## 不正リスク検知PDCAサイクル化の概要

不正リスク対策を成功させるためには、“ビジネス実態に即した不正パターン・徴候定義の維持”と、属人性を排除して効率的にリアルタイムでチェックするための“全量データの自動モニタリング”、明らかな不正だけでなく不正リスク(可能性)があるデータもチェックするための“不正リスク分析・評価”の3点を実現することが重要となります。



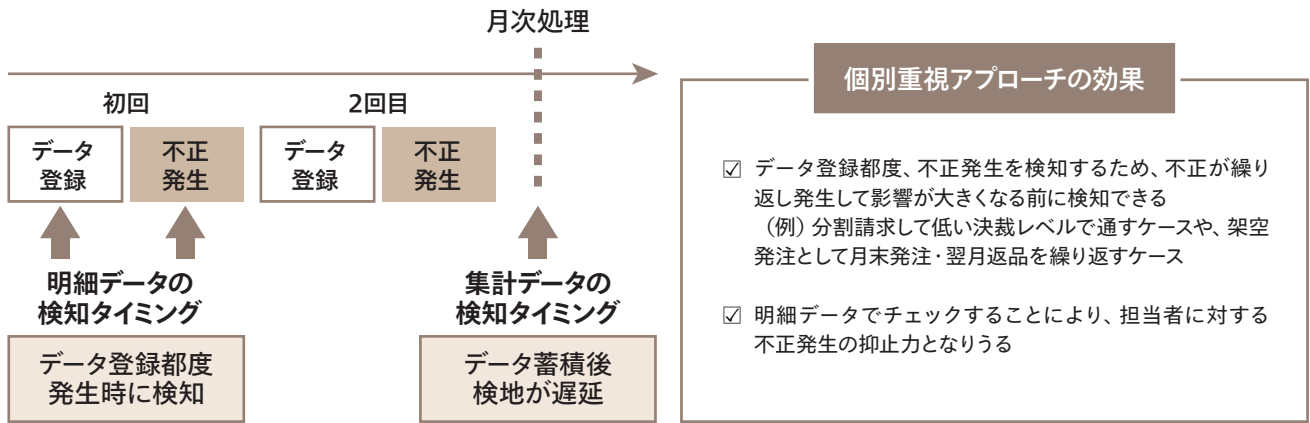
### ①ビジネス実態に即した不正パターン・徴候定義の維持

ビジネス実態に沿った不正パターン・徴候を定義し、効果的な検知業務を開始することも重要ですが、ビジネス実態の変化に適用した状態を維持することも重要です。

不正パターン・徴候が、ビジネス実態と乖離して検知業務が形骸化・陳腐化しないためには、定期的に検知実績やデータ状況の分析、未対応不正の対策追加などによる継続的な追加・見直しが必要となります。

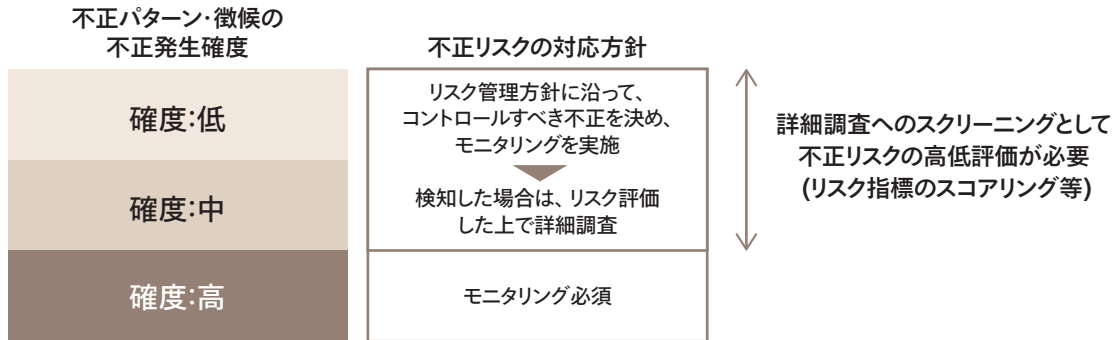
## ②「全量データの自動モニタリング」のアプローチ

サマリ情報の傾向から不正パターン・徴候を分析する概観性重視のアプローチではなく、日々の企業活動で作成される明細データに不正パターン・徴候が発生していないかを検知する個別重視のアプローチをとります。



## ③「不正リスク分析・評価」のアプローチ

明らかに不正と思われるデータのみならず不正リスクの可能性がある“不正パターン・徴候”を定義する場合には、詳細な不正調査の業務負荷をコントロールするためにも、不正リスクの高低評価をしておくことが重要です。企業内のリスク管理方針に従い、コントロールすべき不正リスクを定義した上で、モニタリングする不正パターン・徴候を決定することになります。



## アビームの不正検知サービスラインナップ

	目的	機能	対象領域	管理レベル	(概要)	(使用サービス・ツール)
	グループ会社不正リスクヒートマップ分析	リスク管理	分析	事業範囲	概観性重視	従来の統計手法では難しかった多次元の変数からのルール導出が可能で、財務・非財務の多様なデータから課題の根本原因を発見
不正リスク検知PDCAサイクル化	リスク管理	検知 + 分析	業務・システム領域	個別重視 + 概観性	SaaS型で不正徴候の自動的なモニタリングと関係者への通知だけでなく、不正徴候の関係性によりリスク高低を評価 発生した不正徴候の状況把握・分析レポートの強化により、俯瞰的なリスク分析を実現	Smart Fraud Detection (Skywind4C+SAP SAC) SAP SKYWIND Software Group
	リスク管理	分析	業務・システム領域	概観性重視	一定期間のデータを集計し、不正徴候の関係性によりリスク高低を評価 [SAPS/4HANAとの接続は可能ですが、ライセンスは別体系となります]	SAP BIS
標準外プロセス調査・改善・監視	プロセス統制	検知 + 分析	業務・システム領域	概観性重視	システムの変更履歴から利用順序を把握することでプロセスを可視化し、プロセスのブレや、想定外のデータ量の変動を特定、不正請求や架空売り上げの兆候を特定	celonis
内部統制チェック・分析省力化	監査	分析	業務・システム領域	概観性重視	監査専門のデータ分析ツールで、監査手法をベースにしたデータ分析の実現による監査品質の向上が可能	各種CAATツールのアウトプットを用いた分析支援